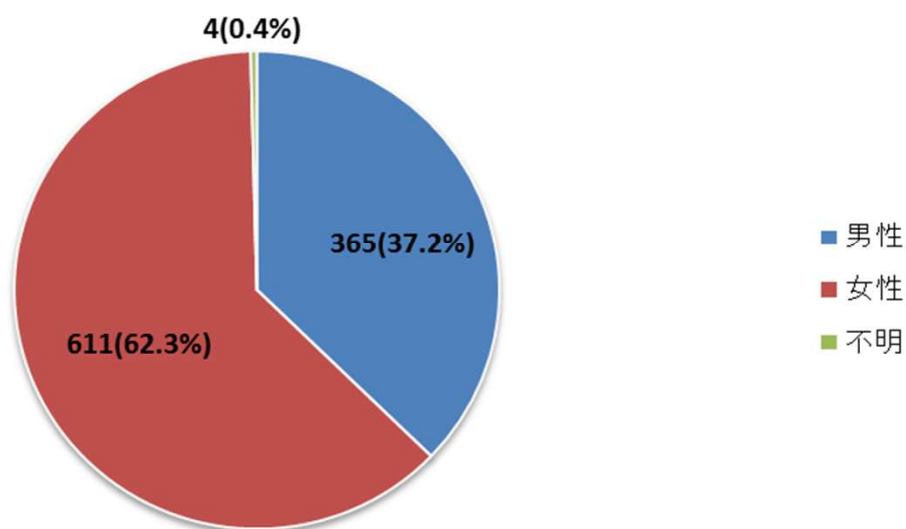


第12回eモニターアンケート「食育について」

実施期間
回答数

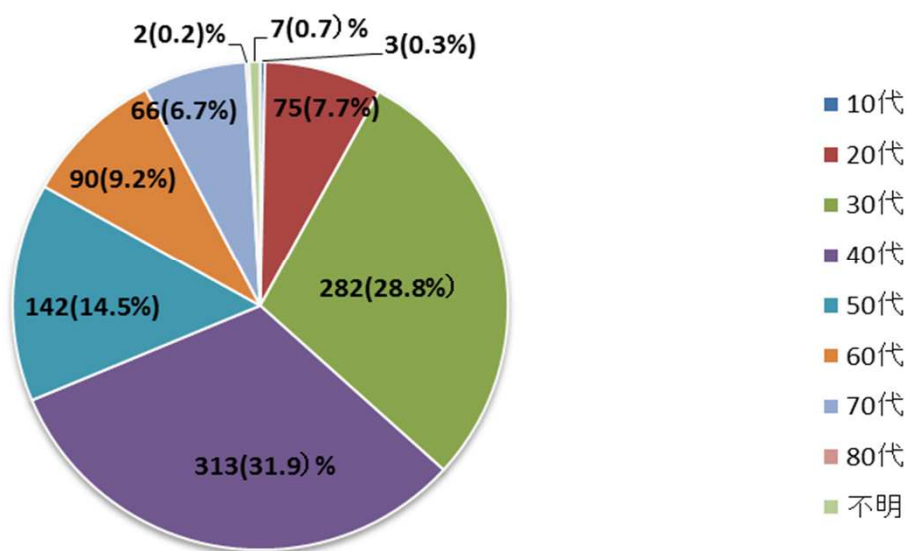
平成27年12月21日 ~ 平成27年12月31日
980 人

男女別割合



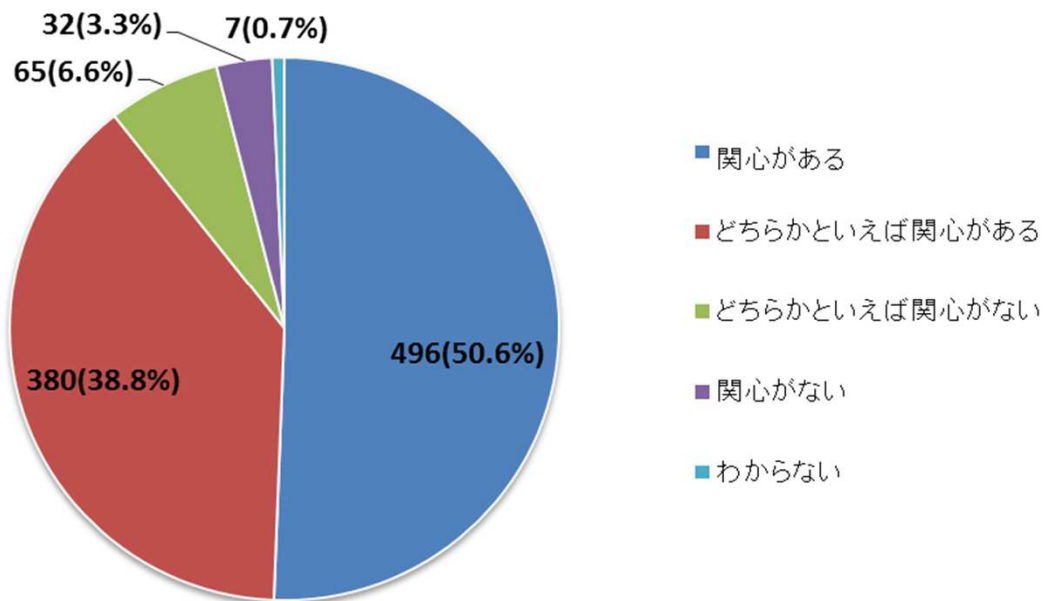
単位: 人(割合%)

世代別割合



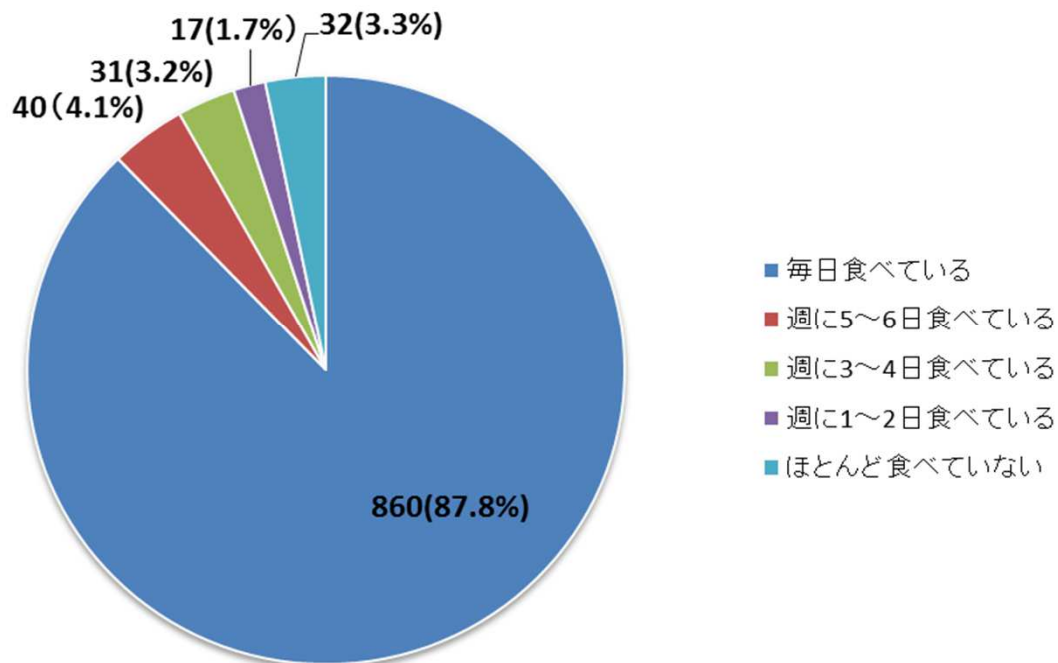
単位: 人(割合%)

問1:食育に関心がありますか



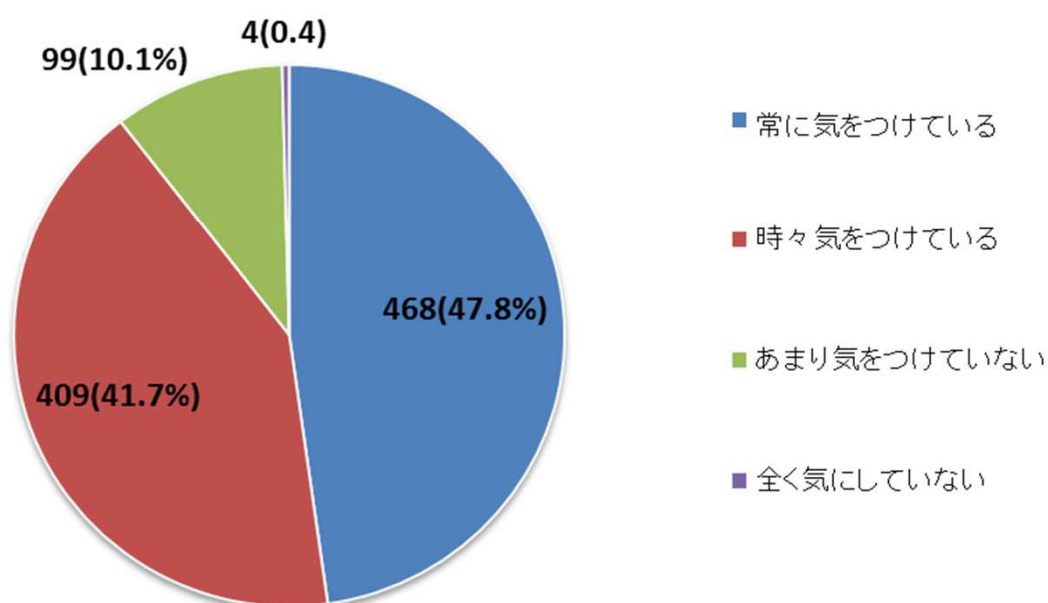
単位: 人(割合%)

問2: 朝食を食べていますか



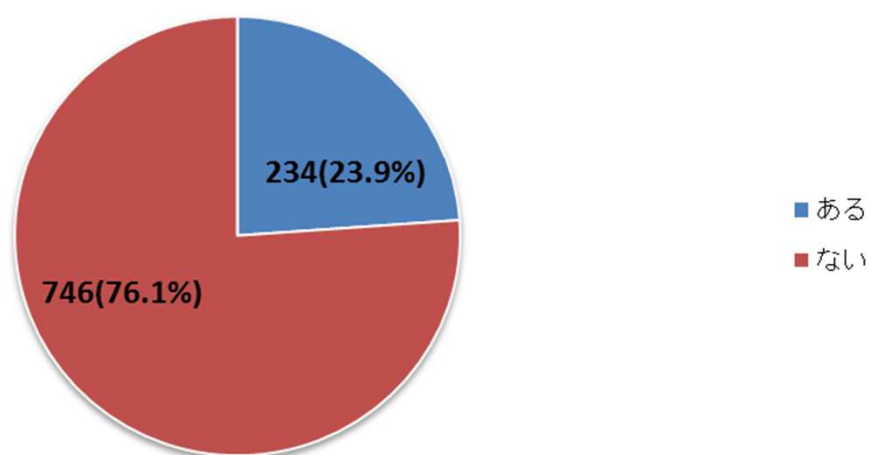
単位: 人(割合%)

問3: 野菜摂取量を増やす、油の多いものを控えるなど、栄養バランスに気をつけていますか



単位: 人(割合%)

問4: 安城市の郷土料理として、思い浮かぶものがありますか

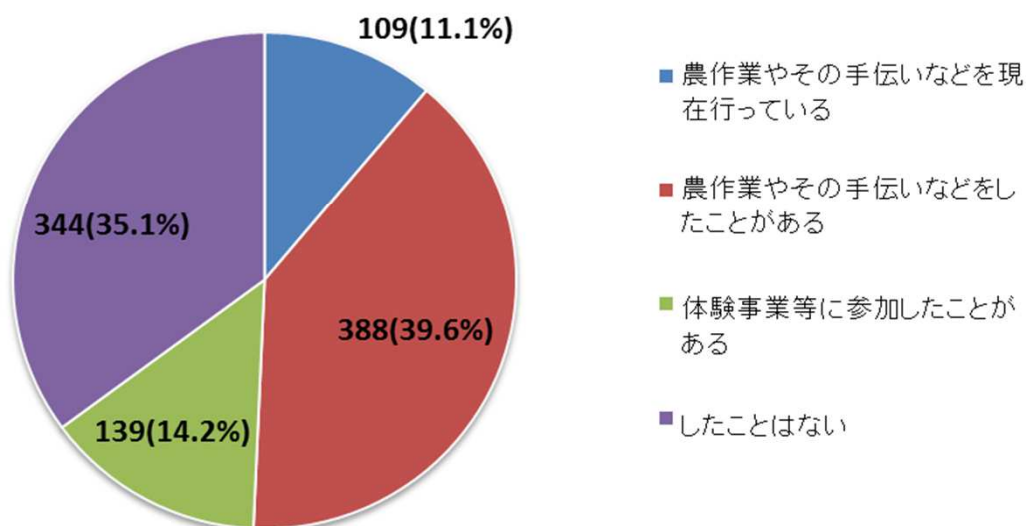


単位: 人(割合%)

問5：前問で「ある」と回答した方にお聞きします。具体的な料理名を記入してください

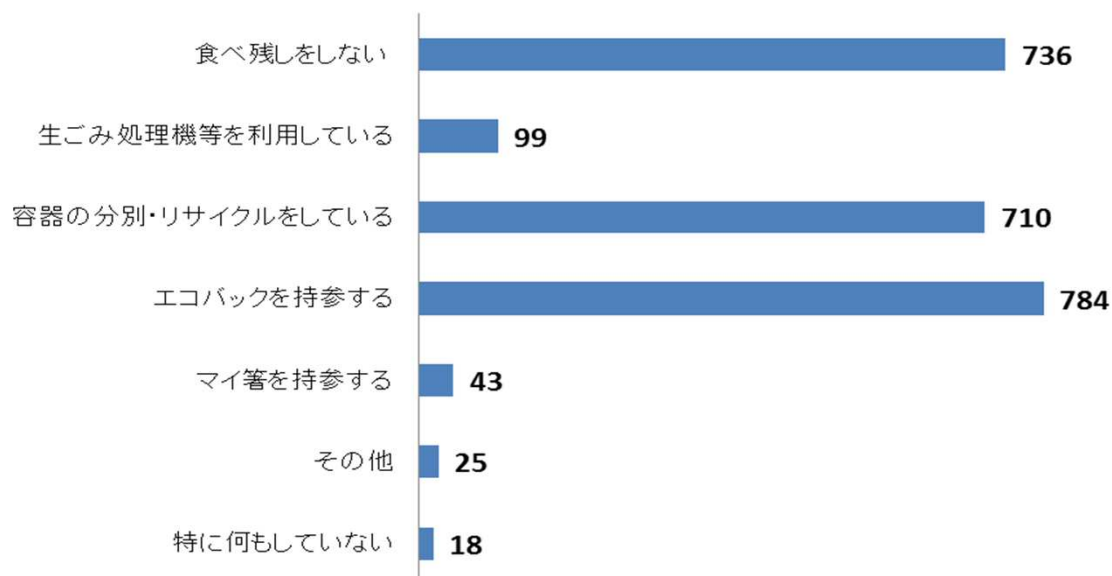
- ・イチジクの天ぷら、味噌煮込み
- ・手延べそうめん
- ・押しずし、押し寿司、箱寿司
- ・おこしもの
- ・いちじくジャム
- ・ひきずり
- ・とりめし
- ・煮味噌
- ・無花果料理、イチジクのでんぷら
- ・雑煮(かくもち、モチナ、たまり、鰹だし)
- ・丈山うどん
- ・落花生の煮物
- ・キュウリの焼酎漬け
- ・いがまんじゅう
- ・北京飯

問6：農作業や農業体験などをしたことがありますか

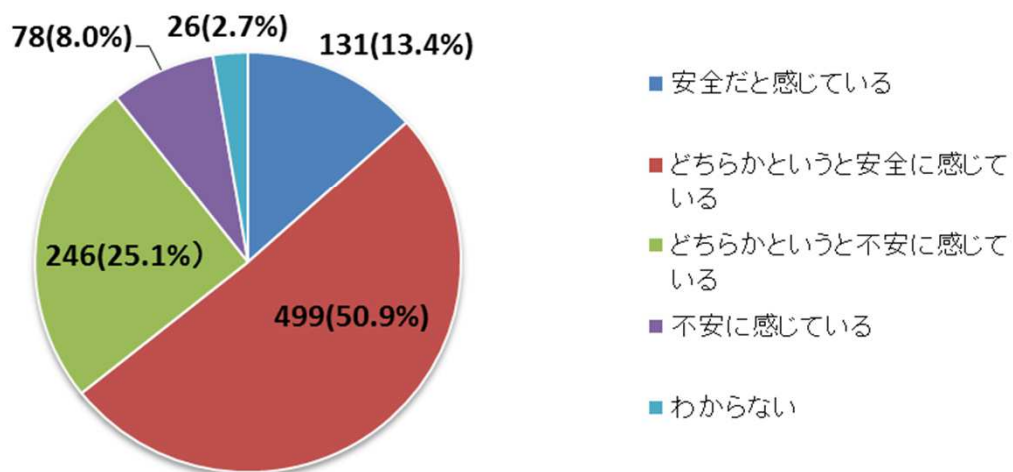


単位：人(割合%)

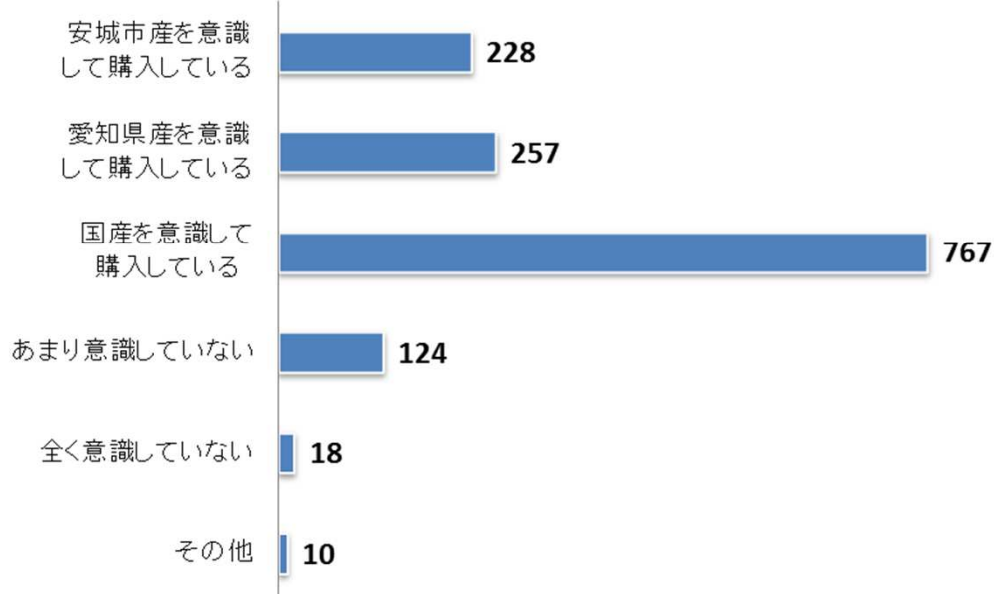
問7:環境にやさしい行動として、食生活で日頃から心がけていることがありますか(複数回答可)



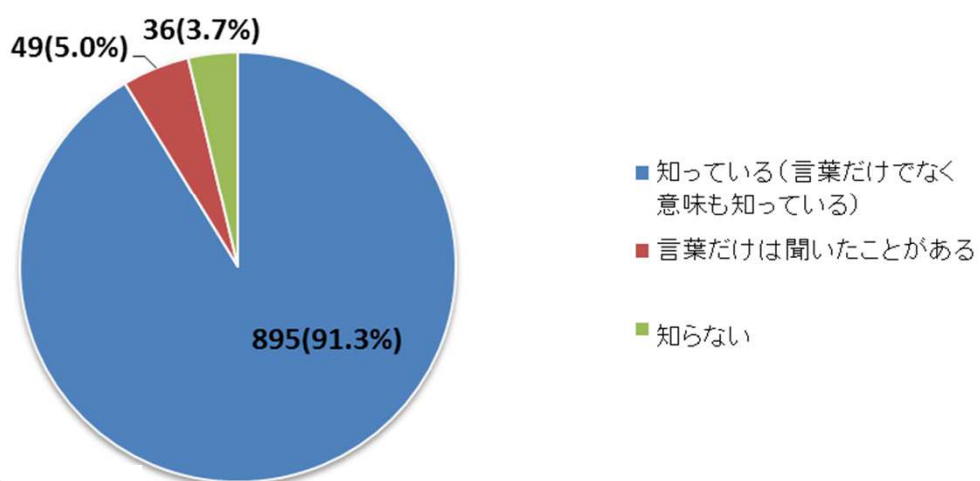
問8:食品の安全性についてどのように感じていますか



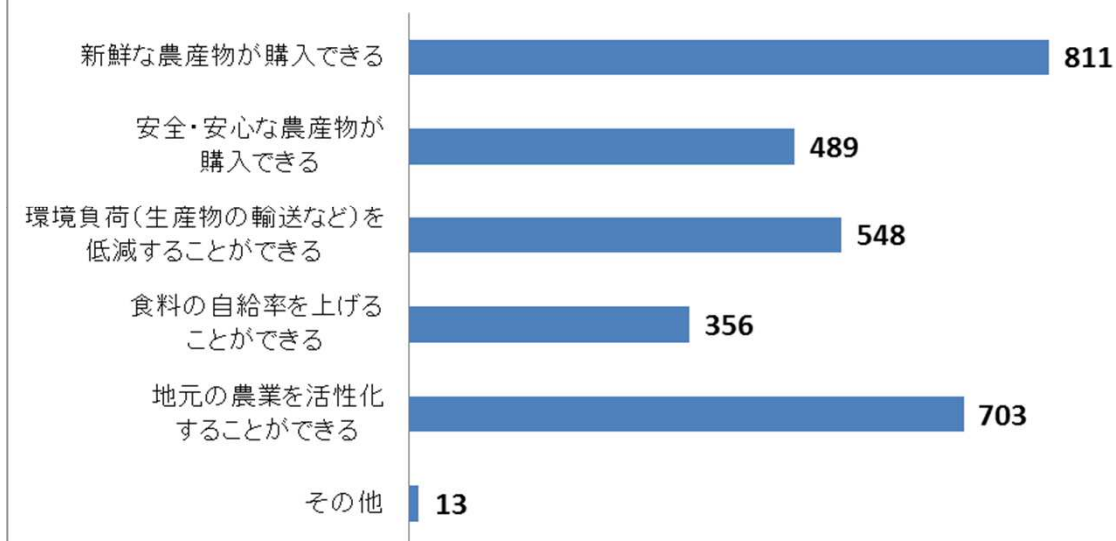
問9:食品の産地を意識して購入していますか (複数回答可)



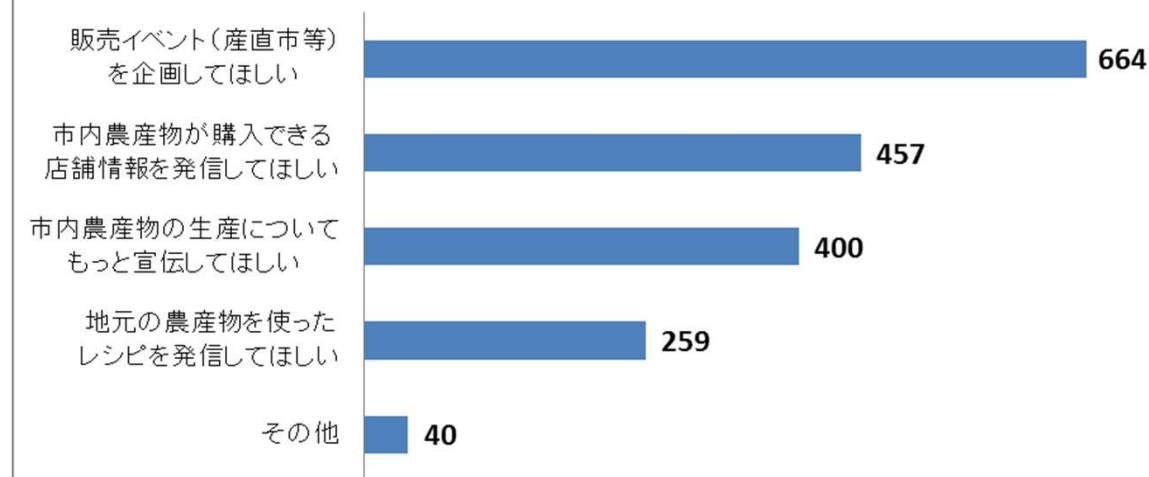
問10:「地産地消」という言葉を知っていますか



問11:「地産地消」の推進によって、どのようなメリットを期待しますか(複数回答可)



問12:今後、地産地消のために、どんな施策が必要だとおもいますか(複数選択可)



問13：食育・地産地消についてご意見・ご要望をご記入ください

- ・新鮮な地元産を流通コスト分等安くして生産者、消費者がメリット有る仕組みを作って活性化させる。現在有るなら目に見える形でPRすれば販売が伸びるのではと思います
- ・問11 価格が安くなる(形が悪くてもとにかく安く売って欲しい)
- ・小、中学校で、食育授業を増やして欲しいです
- ・給食メニューのレシピを公開してほしい。他都道府県ですが、クックパットや市のホームページでレシピ公開しています。安城市の給食も、地域で獲れた野菜を使ったメニューが多いようなので、参考にしたい
- ・スーパーの一角にある、「地元の野菜コーナー」でよく野菜を購入します。そこに、レシピカードを置くといいと思います。「旬の食材を使った農家のレシピ」生産者さんが食べてらっしゃるような料理が知りたいです
- ・農薬を使っていない安全な野菜が食べたい。化学肥料も使わない安全な野菜が果たして安城にあるのか分からない。家畜のフンを肥料にしても家畜が添加物入の飼料を食べていたら意味が無く、本当の安全な野菜の定義も危うい
- ・市内の農業を推進と、市内の多くの農地が宅地になることと矛盾していると感じる。食糧政策のベクトルは昔からぶれすぎている。JAなどによる供給体制にも改善の余地はあるはず。市場において中間経費がかかれば消費者への価格面での恩恵は薄くなる
- ・もっと自然に情報が入るような方策を考えて欲しい
- ・子供が学校で学びいろいろ教えてくれます 嬉しいです
- ・輸送費がかからないはずなのに、コスト削減にはなっていない気がする。安心安全で安いと購買意欲につながると思う
- ・JAをよく利用する。生産者名も確認できる
- ・JAで新鮮な地元の野菜を買うようにしたいです
- ・毎月第4土曜日を「地産地消の日」とは知らなかつた。もっとアピールしてもいいと思う
- ・市内店舗で JA以外安城のものをみかけない
- ・休耕田の大豆をほったらかしにしないでもっと活用してほしい
- ・問9・放射能が心配される地域のものは買わないように気を付けて購入している
- ・問12.地産地消には賛成だが経済的理由で価格の低い物を購入せざるをえない状況です。地産表示がしっかりされており同じ価格なら近隣産地の品物を購入します
- ・安城産の農産物はでんまあとなど特定のお店でしか買えない印象です。市内のスーパーならどこでも買えるようになればよいと思います
- ・今まであまり気にかけていなかったので勉強になりました
- ・出荷規格外の野菜の格安販売、無農薬野菜の販売の情報発信
- ・もっといろんな企画を出して、広めて頂きたいです
- ・問7、食べ切れるだけの食材を購入する(無駄買いしない)。野菜の皮等も料理に使う
- ・この辺りは、産直市場が多く、地元の野菜が安く手に入るのでも有りがたいです。野菜だけでなく、地元のお菓子メーカーや食品工場の製品も安く買えたら良いなと思います
- ・新鮮な物なら姿形を重要視しなくても、手に入れやすい値であれば買いやすい
- ・問7 家庭で消費出来ない野菜類などは、近所や友人で欲しい人にあげることで、無駄なく消費できるよう心がけている。農業体験を耕し人でさせてもらっています。体験の後、豚汁を振る舞って頂き、普段子供が食べない野菜もこの時は、美味しいと食べてくれます。体験する事で、子供も成長してくれます
- ・地産地消だからと言って減農薬で安全とは限りません、自分が食べることを意識して、減農薬もしくは無農薬の農作物を生産し、その生産の過程を商品表示として明らかにしては、いかがでしょう。生産者の名前を産直品には記名しているようですが、実によいことだと思います。生産者も自覚をしますし、購入者も生産者名を参考にして購入できます。更に生産者名と使用農薬の有無等についても検討してはいかがでしょうか。稲作ではすでにやっていることです
- ・今は、どの季節にも大体の野菜が揃っていますが、なるべくその季節の旬のものを食べるようにしています。栄養価も、旬のものの方が高いと聞いたことがありますので・・
- ・問7.余分なものを買わない。作りすぎないこと
- ・地元産は高くても質が悪く安城産のイメージが悪い
- ・問12.安城牛のようなブランド農作物を生み出してはどうでしょうか
- ・食育は大事だが、母親へのプレッシャーを感じさせないものにしてほしい
- ・地産地消と価格のバランスが難しそう
- ・もっと親子で参加できる食育イベントがあるといいと思います。先日保育園で広告をもらいましたが、都合があいませんでした。もっと日にちが設けられているといいです

- ・キーボー市的なものを増やしてもいいと思います
- ・品質にむらがあり 価格と現物チェックに気を使う
- ・地元の生鮮野菜が高いのが不満。食の安全を唱えるなら、原発での土壌汚染を風評被害で片付けず、消費者保護目線で対応して欲しい
- ・販売イベントをたくさん開催して欲しいです。だけど、買い物は荷物が増えます。ぜひ駐車場がたくさんある場所で開催して欲しいです
- ・他の地域にもありますが、産直に地元の野菜や肉を使った農家レストラン、デザートスイーツの店があるといい。産直市場に野菜や果物を使ったジューススタンドなどが あるといい。安城和牛を購入できたり、食べられるレストランをもっと知りたい
- ・食育も家庭環境で 差が出ると思うので、給食や学校で教えてもらえると、うれしい
- ・毎月第4土曜日が地産地消の日と知らなかった。PRが必要だと思います
- ・20代への食育と農業体験が必要だと思います
- ・地産地消は、新鮮で安全なものが食べられ、地元の活性化にもつながると思う
- ・小学校や地域の人たちに地元の農産物を知ってもらって使ってもらう
- ・地産地消、作る側と食べる側がバランスよく潤うとお互いに助かりますね。簡単美味しいレシピがあればもっと食に興味を持つ人が増える気がします
- ・問7 米のとぎ汁で茶碗を洗う、植物に与える。茶殻を植物の土にまぜ肥料にする
- ・問12、農地で種蒔きはしているものの、草取りなど全く面倒を見ていない土地もある。また、休耕地や不使用の土地を検分して回り、その活用をしっかりと考えて欲しい。例えば、借用希望者との接合を図るとか、果樹園への変更を薦めるなど
- ・休耕地(畑)を市が委託管理し、区割りをして市民に安く貸し出す
- ・安城市で作られたからよいのではなく、品質のいいものを提供してほしいです
- ・学校給食は安城市、愛知県産を多く使用してほしい
- ・問12 通勤時間帯に駅などでおにぎりなどを配布し朝食を食べようキャンペーンをしては
- ・問7 野菜の皮なども食べるようにしている、皮を捨てる際には乾燥させて肥料にしている
- ・産直センターでの野菜は安くて大きくて、とても魅力がありよく利用しています
- ・東部農協に時々行き、地元産を買います。レシピがあるので安心できます
- ・農業体験などもっとできると子どもも野菜や食べ物、地元産に興味を持つと思います
- ・問9 九州出身なので、九州産を見つけると買う。野菜の味など微妙に違うので
- ・安さで買い求めることが多いようですが、生産～店頭に並ぶまで、生産者の取り組みを理解したら「地産地消」の良さが広まるのではないのでしょうか
- ・産直の数を増やしてほしい。産直で料理教室の開催
- ・野菜を多く取れる簡単なレシピや地域の生産農家情報をウェブで発信してほしい
- ・産直を利用したいのですが、営業時間が短いので仕事帰りに行けない
- ・問11. 地元野菜を安価に入手できる。 12.出張販売する
- ・食育＝地産地消というスキームにすりかえるのはやめよう
- ・お祭り等でたくさん安く野菜等ふるまって、安城の料理もふるまってくれたら子供にも安城の郷土料理が浸透すると思います
- ・独り暮らしなので、もう少し少量から売られているとありがたいです。(たとえばセット販売きゅうり1本トマト1個でいくらのような)
- ・地産地消という言葉に惑わされないようにしたいものです。つまり、“地産地消”と言えど“安心して食べられる”と短絡的に理解するのは危険だということを周知する必要があると思う。いろいろと企んで儲けようとする輩は、どこにでもいます
- ・保育園や学校の給食、おやつにも安全な地元のものを出してもらいたいです。美味しいお米やフルーツが取れるのでパンは極力与えずおにぎりやフルーツのおやつにしてほしい
- ・(9)京野菜、加賀野菜、魚沼産米などの地域ブランド、また黒毛和牛や大和豚などのブランド名を信用して購入している。特に牛肉のLot番号等トレーサビリティが確立している食品をできるだけ購入するように心がけている。(11.12)野菜などで農家名が記してある見える化は有効と思う
- ・子供のころから教えていくとよいと思います
- ・安城市は、産直市が多く、地元の野菜が安く、おいしく食べることができ、助かっています
- ・生産者と消費者が対話できる環境があったらよい
- ・神社境内での一六市が衰退して淋しい。個性豊かな販売店が地産地消を推進すると思う。今建設中の拠点施設の一角にそのような雰囲気的环境をつくって欲しい
- ・市は、安城の農業を保護してほしい。安心安全な農作物を見守っていく体制が整うと思う
- ・野菜単品の販売もいいが、地元の野菜をふんだんに使った惣菜も売って欲しい
- ・無農薬の物がなかなか無く、そういったものを買える場所が欲しいと思っています
- ・地産地消日周知と地産農家にのぼり掲示で作り手認識
- ・問9: 肉は安城農林高校製(地元の高校のラベルを確認)野菜は生産者を確認している